

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義「協同組合論」



<第2回>

### 「協同組合の仕組みと原則」

石田 正昭／京都大学学術メディアセンター研究員、  
三重大学名誉教授

第2回（10月11日）：受講61名（対面24名、リモート37名）

消費協同組合の源流は、ロッチデール公正先駆者組合（1844年）である。28人の先駆者たちが、1人1ポンドずつを出資して協同組合食料品店舗を設置したのが始まりである。この組合は単に生活必需品を共同購入するだけではなく、住宅を建設し失業者のために土地を購入し、消費者の必要とする食料を生産すると宣言している。この宣言のなかに、あらゆる協同組合が協同し相互扶助を図っていくという協同組合間協同の思想の萌芽をみることができる。

これからは「つながる」ことが大事であり重要である。「未来の創造者」としての協同組合は、人と人、組織と組織、人と組織がつながって協働する場面を数多く作り出す必要がある。協同組合がその役割を主体的に果たすことで「ばらける個人」から「つながる個人」への社会転換を図ることができると期待する。

#### 【第2回／講義の要旨】

- ・1895年に国際協同組合同盟（ICA）結成大会がロンドンで開催された。1937年の第15回ICA大会（パリ）で、ロッチデールの原則を適用した協同組合原則が採択された。1966年第23回ICA大会（ウィーン）では新たな協同組合原則が採択され、1995年第31回ICA大会（イギリス）ではICAアイデンティティ声明と宣言＝新協同組合原則が制定された。協同組合原則は、ロッチデール原則を基本に約30年の周期で変遷を遂げている。
- ・協同組合のアイデンティティに関するICA声明には、7つの原則があり第6原則には「協同組合間の協同」が、第7原則には「地域社会への関与」が示されている。
- ・協同組合の役割について、当初から協同組合人の中で深刻な対立があった。この対立は、ヨーロッパでも日本でも同じ構図で捉えられる。資本主義のなかの協同組合＝「協同組合セクター」論と、資本主義に代わる協同組合＝「協同組合主義」論、資本主義を超えた協同組合＝賀川豊彦「神の国」論である。日本では、産業組合主義と協同組合主義へと二分されていくことになる。
- ・「神の国」は、友愛（助けあい）に満ちた社会野ことである。人と人とがつながり、助けあうことで、全人類の存続と幸福をもたらそうとする社会であり、時代や経済体制の違いを超えて、どのような「地の国」においても成立する協同組合である。
- ・友愛（助けあい）＝自助（共助を伴う自助）・共助（助け合い）・他助（見知らぬ他者への施しは、いずれわが身に返ってくる）＝1人は万人のために万人は1人のために、である。

## 第2回講義／受講生のレポート（抜粋）

- 今回の講義で、協同組合が第二次世界大戦前くらいは政府によって管理されるような組織であり、今のような民主主義的・自由主義的な側面を持ち合わせていなかったということが分かった。その当時の弾圧の要因として治安警察法などがあったことも分かった。
- 協同組合原則が、およそ30年ごとに改定されているというのが面白いなと思いました。その時代に合ったルールや原則を常に考え、時には実際に変更するという事は、協同組合だけに関わらず、大事なことなのだろうなと感じました。また、大学生協がもともとは教職員のための職域生協だったという話を聞いて驚きました。この授業をとっていなかったら、きっと生協についての正しい知識がないまま利用して四年間を過ごしていたと思うので、今知れてよかったと思うと同時に、今後の講義を通してまだまだ協同組合についての知識を得て、より一層その在り方や今後について考えていきたいなと思いました。
- 原則の制定や変遷のお話が個人的にとっても面白く感じたため、機会があればそれぞれ詳細に掘り下げて学んでみたいと考えている。またICA声明については初めて耳にしたのだが協同組合の位置付けやそのアイデンティティを保つために不可欠なものだと感じた。「ばらける個人」をつなぐことの必要性のお話を聞き、今後の社会では、よりいっそうつながりというものが重要になっていくだろうと考えた。現在コロナ禍において薄れがちな人との関わりやつながりを切らさないよう、しっかりと保ち続ける必要があると思う。
- 本日の講義を通しては、協同組合のそもそもの成り立ち、そして誰がその主体を担ってきたのかということについて深く理解することができた。協同組合の主体ということに関しては、主に労働者が担ってきたのであるが、このような協同組合を巡る動きは、それすなわち労働者の権利向上に繋がる動きになったのではないかと私は本日の講義を通して考察する。また、ICAアイデンティティ声明における7つの原則はある意味画期的であり、協同組合が今後発展しうる一つのカギになると感じた。また、これらの原則は、混迷を極めた現代社会全般にも通用しうる原則であると率直に感じた。
- 協同組合は企業とは大きく異なり、組合員が自発的に行動することが求められることを改めて感じた。資本主義という発展的な経済体系があるにも関わらず、あえて協同組合という資本的に脆弱であり、資本主義との関係が曖昧な体制を作ったのかについて協同組合の発展とともに深く理解できた。協同組合の原則やICAアイデンティティ声明をもとに協同組合の在り方についても変化があり、進化を続けていることは新たな発見であった。
- 「ばらける個人」をつなぐというお話を聞きました。今の日本では、人や組織間の繋がりが薄れており、それを繋ぐのが協同組合の役割であるということでした。特にこのコロナウイルスの感染拡大が続く世の中では、私自身人や社会とのつながりが少ないと感じることがあり、困ったことや不安なことがあるときは特にそう感じます。授業で協同組合の源流を学んで、設立の目的を知り、そういう時のためにも協同組合があるのだと感じました。設立される理由も、目的も、協同組合は自分にとって身近なものであると認識しました。
- 「ばらける個人」をつなぐという部分では、今の日本では助け合いの精神が薄まりつつあるということに、危機感を感じた。今回の授業で賀川豊彦の「神の国」を知ったが、今の日本は「友愛に満ちた」状態とは離れていると感じた。今どきは世間も自分自身も、困っている人を見つけても見て見ぬ振りをしたり、「他の人が手を貸すだろう」という思考に至りがちだが、本当に助けが必要な時に誰も頼れないというのは怖いと思った。まずは、自分が見て見ぬふりをしていないか注意しながら生活してみようと思った。今まで「情けは人の為ならず」や「one for all, all for one」という言葉を当たり前のように耳にして、意味は知っていたけれども、今回の授業を通して、改めて大切な言葉だと感じた。

- ・賀川豊彦の神の国論がとにかく印象的だった。友愛に満ちた社会における自助、共助、他助の考え方がとても素敵で是非見習いたいと思った。1人は万人のために、万人は1人のために、この言葉が心に残った。自分が人のためにした行動はいつか自分に返ってくるというのは非常に素敵なことだと思うし、そのような人が増えるといいなと思った。協同組合が「協同」な理由が少しわかった気がした。
- ・協同組合の歴史について学べ、オウエンによる「労働組合大連合」の結成によって、資本主義の中で労働者は資本家にこき使われるのではなく、利潤の分配を受けるなどで、資本家と労働者の立場を対等にすることを目指されたことを学べた。このシステムがなければ社会主義か労働者がいくら利潤を追求しても資本家に搾取される世の中であつたかもしれないと思う。
- ・協同組合がどのように変化してきているのか、これからの協同組合はどうあるべきなのか考えさせられる講義でした。第7原則である地域社会への関与では私たちの身近な自然環境や私たちの日常生活において想像以上に様々な活動をしていることに驚きました。将来において持続可能な社会を形成することが必要であるのは明らかであるので、農業や水産、森林など私たちが生きていく上で守らなければならないものを協同組合を通して守っていくことも一つの方法であることが理解できる良い機会でした。
- ・人権がない状態で労働者が働いていることに疑問を感じ異議を唱えた人がいたからこそ後に世界で初めての労働組合ができたという背景が初めて分かるとともに、労働者自身が経営者に縛られることなく、自立して行動を起こしていくことができる様な環境作りが大切だと感じた。また、協同組合原則は時代に応じて変化しているにも関わらず、教育の促進に関しては時代によらずに常に取り込まれていることから教育の重要性を改めて感じるとともに、教育が受けられることは当たり前のことではないと改めて考えさせられた。ICAアイデンティティ声明の原則で示されている内容を見て日本はヨーロッパなどに比べて劣っていることが多いとも感じた。特に第一原則では性による差別を行ってはいけないということが掲げられているにも関わらず、まだまだ実現されていない現状があると思った。賀川豊彦についても、歴史の授業で習ったことはあつたが具体的にどのようなことをしたかまでは詳しく知らなかったため、今回の講義で神の国論が日本に大きな影響を与えていたということを知ることができた。
- ・協同組合が果たす役割や形が変化していく過程がとても勉強になりました。協同組合の歴史、ICAアイデンティティ声明などのお話により、曖昧だった協同組合への理解が深まりました。現代において協同組合が果たすべき役割を知るには、現代の状況をしっかりと知ることも重要なのだと感じました。
- ・貧富の格差の拡大、雇用や長時間労働など、資本主義には様々な問題点があります。そういった資本主義による問題点を埋める、あるいは資本主義を超えた形で解決するという視点からも、協同組合が必須であると感じました。以上から、人と人、組織と組織、人と組織がつながり、協働する場面を数多くつくりだす、すなわちばらける個人をつなげる個人へと変えることは、今後の社会において必要であるように感じました。しかし、現実として人々には協同組合に関する知識が欠けているように思います。私自身も、大学生協に関する知識が非常に乏しいです。協同組合が何たるかを知った上で加入しない選択を取るのは自由ですが、何もわからない、あるいは存在を知らず加入しない人々がいるのであれば、ばらける個人をつなぐことが困難になってしまいます。そういった観点からも、この講義のような形で協同組合論は非常に重要なことであると思います。

以上